

2018 年 10 月 30 日

広島大学マスタース広島 2018 年秋の例会のご案内

「広島大学マスタース広島」事務局

会員各位

秋らしい日が続くようになりましたが、会員の皆様にはご健勝のことと存じます。さて、今年度の秋の例会として、11 月 22 日(木)に大崎下島の「御手洗」(詳細については、別紙資料をご参照下さい)への日帰り小旅行を企画しました。

ご参加いただける方は、別紙の出欠票にて、FAX または E-mail で、11 月 16 日(金)までに広島大学マスタース広島の事務局までご連絡下さい。

○スケジュール

9 時 45 分 広島バスセンター集合(バスの切符は各自でご購入下さい)

10 時 03 分 広島バスセンター発(6 番ホーム：さんようバス)

なお、このバスには広島駅南口(10 時 16 分)、県立広島大学前(10 時 25 分)などからも乗車できます。その場合には、出欠表にその旨をお書きください。

12 時 25 分 御手洗港着(運賃：片道 2000 円)

昼食 「なごみ亭」または「みはらし食堂」を予定

13 時～ 御手洗観光(以下のルートを予定しておりますが、当日変更されることがあります。)

①潮待ち館(豊町観光協会)－180m→②天満宮－55m→③金子邸－18m→④若胡子屋－78m→⑤明治の時計屋さん－45m→⑥元映画館の洋館－75m→⑦七卿落遺跡－133m→⑧なまこ壁の屋敷－60m→⑨大東寺－133m→⑩江戸の船宿－118m→⑪住吉神社－243m→⑫ふるさと学園－150m→⑬満舟寺－168m→江戸の町並み 合計 約 1.5km＋α

15 時 05 分 御手洗港発 (瀬戸内産交バス)

17 時 19 分 広島駅前着 (運賃 1160 円)

17 時 36 分 広島駅発 (JR 呉線)

18 時 21 分 広島駅着 (運賃 580 円)

18 時 30 分～ 懇親会 (広島駅周辺を予定しています)

2018 年秋の例会「御手洗」日帰り小旅行出欠票

お名前：

小旅行 出席 欠席

懇親会 出席 欠席 いずれかに○印をお付けください。

同行者数：家族()人、友人()人、その他()人

携帯電話番号：

(参加者への連絡用に使用させていただきます。)

(連絡先) 広島大学マスターズ広島事務局 (担当：植村)

FAX 0 8 2 - 5 4 2 - 6 9 6 4

E-mail masters2@hiroshima-u.ac.jp

呉市御手洗に関する資料

御手洗（みたらい）は、瀬戸内海に浮かぶ大崎下島（広島県呉市）の港町。1994 年（平成 6 年）に重要伝統的建造物群保存地区として選定された（全国で 38 番目の選定）。

元々狭い土地に埋め立てを繰り返しながら拡大していった港町であり、大小の商家・茶屋・船宿・神社仏閣に、江戸時代に整備された波止・雁木などの港湾施設、網の目のように張り巡らされた道が特徴的な町並みである。

町屋は切妻造・棧瓦葺が多く、これに明治期以降に建てられたモダン建築も点在している。江戸時代に栄えた瀬戸内海島嶼部の港町としては漆喰が多くなまこ壁をあしらった豪邸があるが、これは宝暦 9 年（1759 年）この地を大火が襲ったことから、火事対策として普及したもの。間口の大きさを税金をかけていたため、全体的に間口は狭く奥行きが長い構造をしている。

江戸時代後期に整備された千砂子波止は、現存のものとしては日本有数の規模を誇る。それら港湾施設と、そこから浜沿いに続く船宿(旅館ではなく問屋)は、近代以前の日本の港町の姿を良く残している。

[名所・史跡]

○文化財登録されているもの

恵美須神社

本殿・拝殿が県重文。初代は御手洗が開かれた寛文 6 年（1666 年）に建立されたと推定されており、現在の社殿は享保 8 年（1723 年）建立。流造。島嶼部の小規模神社として貴重な文化財。

住吉神社

本殿・瑞垣及び門が県重文。御手洗外港（千砂子波止）整備に伴い鴻池家の寄進で、文政 11 年（1828 年）住吉大社を勧請して建立。全国的に少なくなった本格的な住吉造。瑞垣には砂持として工事に参加した茶屋の芸妓の源氏名が刻まれている。

若胡子屋跡

県史跡。享保 9 年（1724 年）広島藩公認の待合茶屋で、50 人、一説には 100 人芸妓を抱えていた手洗最大の茶屋。茶屋は 4 軒あり花街を形成していたがここのみ現存。『日本残酷物語』のおはぐろ伝説の舞台である。明治期に寺院に転用され、のち地区会館として使用されていたが、今は資料館として用いられている。

七卿落遺跡

県史跡。延岡藩などの船宿に指定され、御手洗町年寄・割庄屋役を務めた多田家・屋号竹原屋の屋敷 跡。七卿落ちのうち、五卿が長州に逃れる途中この島に立ち寄って宿泊した際の屋敷。遺跡とあるが家屋も残り、海沿いの民家の風情を今に伝える。

船宿（三軒長屋）

市有形。文政年間に建てられた切妻造の平屋。中央の中本屋のみ慶応 3 年（1867 年）大洲藩船宿に 指定された記録が残る。現在は喫茶店兼ギャラリーとミニチュア和船工房。

旧柴屋住宅（御手洗町並み保存センター）

市有形。御手洗町年寄および大長村庄屋を務めた高橋家・屋号柴屋の別宅の一部。測量に訪れた伊能忠敬が宿泊し、遊覧のため訪れた広島藩主が休憩している。現在は町並み保存センターとして活用されており、「伊能忠敬御手洗測量之図」のレプリカが展示されている。

旧金子家住宅

主屋のみ市有形。町年寄・庄屋役を務めた金子家・屋号三笠屋の邸宅。御手洗条約の舞台となった。茶室は、日本唯一の江戸期の上田宗箇流のもの。

満舟寺

石垣のみ市有形。縁起によれば上記の平清盛が建立した草庵。確実な記録としては享保 3 年（1718 年）建立の観音堂が 18 世紀中頃までに規模が大きくなったため、豊田郡納所村（現三原市）にあった浄土宗松桂庵から寺号を貰い受け正式な寺となった。境内にある石垣は四国攻めの際に加藤清正が築いたと伝承されている。

○文化財されていない主要なもの

千砂子波止・高燈籠

文政 12 年（1829 年）広島藩が築いた波止場で、当時最高の技術で作られ“中国無双”と謳われた。全長 65 間（約 120m）、沖出し 50 間（約 90m）。安政大地震では全く被害はなく、2 度高潮被害で先端部が部分的に欠落したが全体としては無事であり、ほぼ江戸時代建造されたまま現存している。高燈籠は 1991 年台風 19 号により倒壊したため翌年に再建されたものである。

御手洗天満宮

幕末期に芸薩交易の場所となり港が整備されることになった。その時の整備担当役人の船越寿左衛門が明治 4 年（1871 年）に寄進したもの。現在のものは大正 6 年（1917 年）に再建された。地区名の由来である御手洗の井戸や、地元出身の中村春吉の碑がある。

乙女座

昭和 12 年（1937 年）に開設された昭和初期モダン建築。昭和 30 年代まで映画館、のち選果場として転用、平成 14 年（2002 年）現状復元。

大東寺

18 世紀初頭からあった登光寺と 19 世紀中頃からあった隆法寺が昭和 17 年（1942 年）に合併したもの。寺号は世相を反映して大東亜戦争にちなんで付けられている。

歴史の見える丘公園

重伝建選定により整備された公園。御手洗だけでなく周辺の島々を見ることが出来る。

おいらん公園

御手洗の急傾斜対策工事の際に偶然見つかった 100 あまりの墓石を高台に移設設置した公園。発見された場所と墓標から若胡子屋の芸妓・童子ら関係者のものと推定されている。江戸時代において遊女の墓が作られることは大変珍しく、当時の御手洗の芸妓を大切にしていた一端が垣間見える。

問い合わせ：呉市豊島観光協会

〒734-0302 広島県呉市豊町御手洗 187-1 電話/FAX 0823-67-2278

参照：「御手洗」(Wikipedia)